

様々な問題について議論した



東北地連

女性協定期大会開かれる

北信越地連



女性協議会

＊東北地連＊

女性協活動の継続を

青森の初冬としては、比較的暖かい日となった11月29日、30日に、第三回東北地連女性協議会執行委員会と定期大会が、青森の奥座敷である浅虫温泉で開催された。

新旧の執行委員の参加は、もちろん、労連女性協からは、テレビ朝日の中井幹子さん、東北地連からは、三浦委員長と金野書記長もかけつけた。初日は執行委員会に先立ち、講演会が行われた。講師は、ラジオ関東に入社され、1984年から1987年まで女性協の議長を務められた池谷まゆみさんで、女性三〇歳定年制撤廃、結婚退職制度撤廃、労働組合結成などに取組んだ経験から、ネットワークを結び行動することの大切さを、時にはユーモアを交え講演された。

翌日の定期大会では、各単組が抱える女性問題の報告を元に、契約社員に対する組合としての取り組みや母性保護、出席時の完全有給化についてなど、2002年度総括・質疑討論が行われた。

そして、東北地連女性協

＊北信越地連＊

女性の集いも同時開催

北信越地連女性協は、11月29、30日に第二七回目を迎えた女性の集いと第三回定期大会を紅葉の美しい富山県城端町の桜ヶ池クアガーデンで開いた。地連の役員、労連女性協、各地連内から二五人が参加した。これまでは女性の集いと定期大会が別の日にそれぞれ開催されていたが、今回はこれまでと違った集い、定期大会のあり方を考えよう、と、一日目に集いを、二日目に定期大会のスケジュールで開かれた。

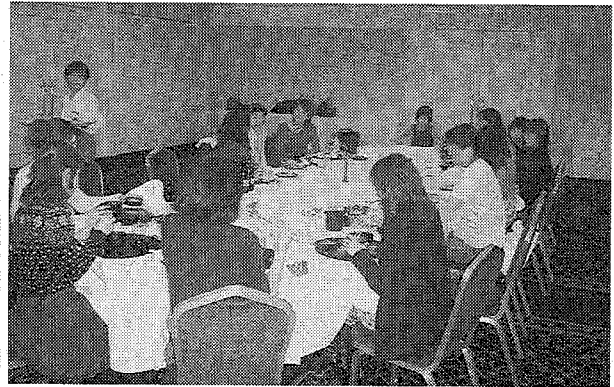
集いでは、はじめに飯野女性のつどい実行委員長が(富山テレビ)あいさつ。続いて、三日月地連執行委員長(テレビ金沢)が「いよいよデジタル化が現実になり、デジタル化に向けての財務状況にも厳しいものがある。新人事制度導入に伴い放送局の賃金体系、働き方等も変わりつつある。としては、①女性協議会の活動の継続②働きやすい職場を作る③働く者の健康を守る、ことを2003年度の取り組みとすることにした。最後に、東北地連から、「東北美術争議の経過とデジタル化の現状と将来について」の報告があり、常に問題意識を持つことの大切さを実感した大会となった。

なお、今大会以降は、青森から福島へ、議長、及び事務局をバトンタッチすることになった。

の民間放送連盟賞TV教養部門優秀賞を始め様々な賞を受賞したドキュメンタリー「赤紙配達人」のある兵事係りの証言」の取材先での苦労話を始め、子育て、さらに現在進行中の介護について語った。この中で金沢さんは、

「日本の戦争の語り部は年々少なくなっている。今もどこかで起こっている、容赦なく家族を引き裂く戦争は、五〇年前の日

本で起きたこと。今あるこの平和の意味を考えて欲しい」と平和を訴えた。



なごやかに懇親会が催された

翌日は第三回定期大会が開かれ、地連女性協のこの一年間の活動や取り組みが報告された。続いて、地連内の各単組からは職場の現状や問題点、女性たちの活動報告が行われ、女性が抱えている様々な仕事上の問題、悩みなどについても話し合われた。その後、差別雇用を撤廃など、七項目の議案について活発な討論が交わされ、これから一年間の活動方針が決まった。今回は、金沢で開催の予定。

北信越地連女性協議会

向川喜代子